

国語問題

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この問題冊子は 25 ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 問題冊子および国語解答用紙（マークシート）と国語記述解答用紙が配布された後、各解答用紙の所定欄に座席番号・氏名・フリガナを正確に記入し、国語解答用紙（マークシート）の座席番号欄には座席番号を正しくマークしてください。
4. 解答は必ず国語解答用紙（マークシート）の指定された箇所に正しくマークし、記述式問題の解答は国語記述解答用紙に記述してください。マーク箇所を誤った解答は無効です。

5. マーク解答欄記入上の注意

- (1) 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書かないでください。例えば、

20

 と表示のある問いに対して、③と解答する場合には、次の例のように**解答番号 20**の**解答欄**の③にマークしてください。

例

解答 番号	解					答					欄				
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
20	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											

- (2) 複数の解答がある場合も、同じ解答欄にマークしてください。ただし、指示された解答数より多くマークした場合は、その解答はすべて不正解となります。
 - (3) 解答用紙へのマークはすべて HB のシャープペンシルまたは鉛筆で行い、訂正する場合にはプラスチック製消しゴムで丁寧に消し、消しきずはきれいに取除いてください。
 - (4) 解答用紙は絶対に汚さないでください。また折り曲げたり破ったりしないでください。
 - (5) 解答欄の所定欄以外の余白部分は、何も記入しないでください。記入したり、汚したりすると解答用紙読み取り時の誤読の原因となり、採点できない場合があります。
6. 国語記述解答用紙については、注意事項をよく読み、指定された設問について解答しなさい。
 7. 試験時間中に退場することはできません。
 8. 問題冊子は必ず持ち帰ってください。
 9. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。

I 次は、「アリのコロニー（一地域に定着した生物集団）には、働かないアリが一定数いる。一見非効率な組織のように見えるが、このおかげで、急に仕事量が増えた場合や働くアリが疲労した場合などにも新たな労働力を提供でき、そのコロニーは長期間存続できるのである」とする長谷川英祐『働かないアリに意義がある』からの文章である。この文章を読んで、後の設問に答えなさい。

動物は生きるために他の生物を食べる「必要」があります。食べられる側にとって食べる側は「必要」ではありませんが、食べる側はストーリーのようにつきまとい、決して放っておいてはくれないのです。この構図はどこかで見ました。「社会のなかの個体たち」や「オスとメス」のように、相手なしにはなりたない関係です。

この「食う・食われる」という関係が生じたことにより、いままでのほほん^(a)と光合成だけしていればよかった植物たちも、「食べられる」という新たな状況に反応して、新たな進化を遂げなければならなくなったのです。例えば、トゲをつけたり毒物質を蓄積したりという具合に。動物たちも植物の対抗策にさらに対応し、新たな性質を獲得しなければならなくなったでしょう。

また生物は、特定の食べ物に適応してしまうと他のものを食べにくくなると予想されるため、「食う・食われる」の関係は、少数の種類間のみ成立する関係になりやすいと思われれます。なぜなら、生物の遺伝子に変化を起こす突然変異は偶然によって起こるため、場所によって現れる遺伝的変異が異なり、進化の方向が様々になるからです。つまり、同じ種類同士のあいだで同じような相互作用が起こっていても、その後の進化の方向は同じとは限らないのです。とすると、最初まったく同じだった種が、地域によって最初とは違う関係に進化してしまうことになり、どんどん多様化が進むでしょう。

こうして、「食う・食われる」という⁽¹⁾二つの生物が相互干渉する関係が生じたことで、選択への圧力のかかり方が種や地域の違いで様々に多様化し、それぞれに反応した選択を行った結果、現在のように生物が進化してきたのだと解釈されます。

これと同様なことは「オスとメス」や「社会」の誕生をきっかけにしても起こったでしょう。相手がいること、そして相手も自分に対応して進化し続けることが、進化の無限のらせんと、場所ごとに異なる進化のパターンを生みだします。こうして、最初一つの生物から始まった世界は、現在見られるとても多様な状態になったのです。

このような進化が生き物の世界に、社会とそれに伴う複雑な生物現象を生じさせてきたことはお話ししてきましたとおりです。それでははたして、

進化の果てにたどり着くべき理想像のようなものはあるのでしょうか。

人間の社会には「**X**」という諺ことわざがあります。イソップ童話の「アリとキリギリス（もともとの話はキリギリスではなくセミだったともいいます）」では、アリが働いている夏のあいだ鳴き遊んでいたキリギリスが、冬になってアリに食べ物をねだると「夏は歌って暮らしたなら、冬は踊って暮らせ」と突き放されます。

これらの話は、勤労により社会の労働生産効率をあげることに貢献しない者は生きなくてよいという意味で、怠けている者を戒める話として使われています。しかし本書では、働かない働きアリをもつシステムは、短期的な労働効率は低くても長期的な存続率が高いため、長い時間で見ると生き残る、と言ってきました。

ここまで聞いて「何かおかしいぞ?」と思つたあなたは鋭い方です。

いままでずっと、生物の適応度は次世代に残す遺伝子の数で測られると言ってきたわけですし、血縁*1選択は、その遺伝子は血縁者を通じて伝わってもよいというシステムでした。この大原則は、「この世代」で「強いもの」が生き残るという思想です。いまこの世代における強弱のみが問題であり、短期的な効率が高いものが最後に残るはずだと言い換えることもできます。ところが、働かない働きアリについては、短期的に高効率なシステムより低効率なものが残るという結論になっています。なぜこんなことになるのでしょうか? 「自然選択のもとでは適者生存」という鉄則てつそく自体が間違っているのでしょうか?

実はこの「適者」というのがくせ者*2です。ダーウィンの論理には、「何に対して適しているものが適者なのか」という定義がなされておらず、したがってどんな性質が進化してくるのかもこの論理だけでは決められないのです。そこで進化論を支持する学者たちは「世代が重ならず（親子の世代が共存しない）、世代間で個体数が変化せず、内部での交配は完全にランダム*3である」というきわめてシンプルな「定常個体群」という集団を想定し、そこで個体の適応度が異なると、適応度の高いものが最終的に残ることを計算によって示しました。それで現実の生物もすべて説明しようと考えたのです。つまり、現在のほとんどの進化理論は、理想的な個体群においてのみ成立する考え方でしかないのです。

この、理想状態での理論値と現実の生物が示す行動パターンが一致する例はたくさん報告されており、進化理論の正しさを示す証拠だとされていますし、確かにそうなのですが、問題(3)はあります。

研究という活動は理論と一致した結果だと公表されやすく、理論と一致しない結果は公表されずに終わる可能性が高いものです。つまり公表さ

れた例だけを目にしていることを考えると、現実が理論と一致する場合は「ある」とはいえるものの、本当に「多い」とはいえないかもしれないのです。

また、現実には生物が生きる環境は理想状態とはほど遠く、学者が設定した定常個体群のありようとは遠い隔たりがある場合もたくさんあります。ヒトを含む多くの生物では複数の世代が共存し、最近の日本の超高齢化社会の進行からもわかるように、世代ごとの個体数は常に変動しています。また、個体は自分が見つけられる範囲にいる個体としか交配できません。このような変動要因まで考慮したときにどのような進化が起こるのかは、実はまだほとんど研究も理解もされていないのです。

適応度に基づく進化の考えにはもう一つ大きな問題があります。適応度は未来における値なので、測定する未来をどの時点に置くかで値が違ってくる可能性があるのです。通常は「次世代」または「孫の世代」での適応度を進化のシヒョウ(ア)にしますが、次世代で適応度が高いある性質も、何百世代も未来で考えると、次世代で低い適応度しか示せない性質より適応度は低いかもしれません。言い換えれば「ある生物がどのくらい未来の適応度に反応して進化しているのかはまったくわかっていない」のです。もしかすると、次世代の適応度に反応する遺伝子型と、遠い未来の適応度に反応する遺伝子型がいまこの瞬間も、私たちの体内で競争しているのかもしれませんが。しかし理論上にせよそんなことが検討されたことはいままでないのです。

これら⁽⁴⁾自然選択説の盲点を考え合わせると、働かない働きアリの存在も、あなたが進化の原則と矛盾していないと思えます。彼らには直近の未来の効率ではなく、遠い未来の存続可能性に反応した進化が起こっている、と私自身は考えています。みながいっせいに働くシステムは直近の効率が高くても、未来の適応度は低いのです。

ところが、このような問題はごく最近の研究によってやっと扱われ始めたばかりですし、現実の生物が適応度の時間軸*4のスパンを変化させる理論でどれだけ説明できるのかもまだほとんど不明です。科学は理論的に簡素で明解に説明できることを重んじます⁽⁵⁾が、説明原理（この場合は適応度に基づく進化）にどのような理論的制約があるのかを忘れると、ただの机上の空論になってしまいます。

生物学は現実の生物が「なぜ (Why)」そして「どのように (How)」進化してきたのかを明らかにする学問ですから、理論的に美しいことよりも、現実の生物をうまく説明できるといふ価値観を大切にしなければなりません。私たちはそういう視点を忘れずにこれからも研究を進めていきたいと思っています。

進化は、永遠に終わることのないカテゴリー^(イ)ですが、もしも「完全な適応」が生じれば進化は終わります。私はコウギ^(ウ)のなかで学生に「すべての環境で万能の生物がいれば、進化は終わるのか？」という問いを必ず投げかけます。全能の生物がもしあれば、どのような環境でも競争に勝てるため、世界にはその生物しかいなくなるからです。進化とはそんな、存在しない「神」を目指す長い道行きだともいえるでしょう。と同時に、なぜそのような生物が存在しないのか、理由を考えることも、生物を理解するうえでは大切な姿勢だといえるでしょう。

*注1 血縁選択

自然選択による生物の進化を考えるには、個体が自ら残す子孫の数だけではなく、遺伝子を共有する血縁者の繁殖成功に与える影響も考慮すべきだとする進化生物学の理論

2 ダーウィン チャールズ・ロバート・ダーウィン (1809-1882) 英国の自然科学者。卓越した地質学者・生物学者で、『種の起源』を著わして生物進化の理論を確立した。

3 ランダム ものごとの発生に法則性(規則性)がなく、予測が不可能なさま

4 スパン 時間の幅

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)のカタカナは漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つ選び、
順番は無視して、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア)

(イ)

(ウ)

(解答例) シゲン

- ① 幻
- ② 姿
- ③ 源
- ④ 試
- ⑤ 玄
- ⑥ 資
- ⑦ 限
- ⑧ 齒
- ⑨ 巖
- ⑩ 士

答 ③ ⑥

(ア) シヒョウ

- ① 志
- ② 標
- ③ 師
- ④ 表
- ⑤ 詞
- ⑥ 評
- ⑦ 指
- ⑧ 平
- ⑨ 史
- ⑩ 氷

(イ) カテイ

- ① 課
- ② 提
- ③ 科
- ④ 程
- ⑤ 仮
- ⑥ 底
- ⑦ 過
- ⑧ 定
- ⑨ 下
- ⑩ 艇

(ウ) コウギ

- ① 偽
- ② 考
- ③ 議
- ④ 抗
- ⑤ 戯
- ⑥ 広
- ⑦ 義
- ⑧ 公
- ⑨ 技
- ⑩ 講

問二 傍線部(a)・(b)の本文中の意味として最も適切なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(a)

(b)

(a) のほほんと

- ① とても楽しく幸せに満ちているさま
- ② 一つのことにかかりきりになっているさま
- ③ ギリギリのところまで踏ん張っているさま
- ④ 雰囲気は飲まれて自分を見失っているさま
- ⑤ 気ままにのんびりとしているさま

(b) くせ者

- ① 考えに大きな偏りがあって、とうてい信じることができないもの
- ② 表面には現れていない何かがありそうで、決して油断できないもの
- ③ 一見役に立ちそうに思えても、実際には損失をもたらすことになるもの
- ④ 他には決まることがい知ることのできない、独特の性質をもっているもの
- ⑤ 怪しいということは分かっても、その正体をつかむことができないもの

問三 傍線部(1)「二つの生物が相互干渉する関係」とあるが、その関係に当てはまらないものはどれか。次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

6

- ① 地域によって、最初は同じであった種が、異なった進化を見せるようになる。
- ② 植物が、動物への対抗策として、トゲをつけたり、毒物質を保有したりする。
- ③ 生物は、特定の食べ物に適応してしまうと他のものを食べにくくなる。
- ④ 植物の対抗策に対応して、それを克服しうる新たな性質を、動物が獲得する。

問四 空欄 X に入る諺として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- ① 楽あれば苦あり苦あれば楽あり
- ② 情けは人の為ならず
- ③ 果報は寝て待て
- ④ 働かざるもの食うべからず

問五 傍線部(2)「自然選択のもとでは適者生存」という鉄則」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- ① 勤労により社会の労働生産効率をあげることに貢献しない者は生きなくてよいということ
- ② 短期的に高効率なシステムよりも、低効率なものの方が、長期的に見れば生き残るということ
- ③ 進化の方向性は、それぞれの場所において偶然に現れる遺伝的変異によって決定されるということ
- ④ その世代における強弱のみが問題であり、短期的な効率が高いものが最後に残るということ

問六 傍線部(3)「問題はあります」とあるが、ここにおける「問題」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- ① 現在の進化理論のほとんどは、理想的な個体群においてしか成り立たない考え方であるということ
- ② 現実と理論が一致する研究結果のみが公表されがちで、不一致がどの程度あるのか分からないということ
- ③ 短期的に高効率なシステムより、アリのように低効率なものが残ることが結論される場合があるということ
- ④ 細かな変動要因にとらわれることによって、理論を打ち立てるための理想状態を設定できなくなるということ

問七 傍線部(4)「自然選択説の盲点」とは何を意味するか。本文の内容に沿って、国語記述解答用紙に、六十字以内(句読点を含む)で記述しな
れよ。

				5
				10
				15
60				

(この枠は下書き用です。別紙の国語記述解答用紙に記入のこと。)

問八 傍線部⑤「説明原理（この場合は適応度に基づく進化）にどのような理論的制約があるのかを忘れると、ただの机上の空論になってしまう」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- ① 理想化されたモデルや限定が加わったモデルに基づいて現実を説明しようとする場合、そのモデルの立て方やそれによって構築された理論に論理的矛盾が存在しないかどうかを慎重に検証しなければ、その理論は学術的には決して認められないということ
- ② 説明の対象がどんなに複雑で広範なものであっても、それを理想化したり一部だけを切り取ったりして考察するのではなく、対象のすべての事例を説明できるようにしなければ、その理論は思考実験としては有用であっても、実際的には適用できなくなるということ
- ③ その説明が理想的なモデルや限定を加えたモデルに基づいて構築されていることを自覚し、それが現実には適用できるか、説明対象の多くを説明できるかを検証することを忘れないようにしなければ、その理論は実際には役に立たなくなってしまうということ
- ④ 広範で複雑なものを対象とする場合、そのすべてをきちんと説明する理論を構築することは現実的には不可能と言わざるをえないから、実際的に有用であるかどうかは別として、理想的なモデルや限定的なモデルに基づいて理論を構築していくしか道はないということ

II 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

海岸のその町は、夏になると、急に他人の町になってしまう。——都会から、らくに日帰りができるといふ距離のせいか、避暑客たちが山のよ
うに押し寄せてくるのだ。夏のあいだじゅう、町は人口も倍近くにふくれあがり、海水浴の客たちがすっかり町を占領して、夜も昼も、うきうき
とそうぞうしい。

その年も、いつのまにか夏がきてしまっていた。ぞくぞくと都会からの海水浴の客たちがつめかけ、例年どおり町をわがもの顔に歩きまわる。
大きく背中をあけた水着にサンダル＊1の女。ウクレレを持ったサン・グラスの男たち。写真機をぶらさげ子どもをかかえた家族連れ。真赤なショ
ト・パンツかとももに太腿むねをむきだしにした麦藁帽むぎわらぼうの若い女たち。そんな人びとの高い笑い声に、自動車の警笛アがフダンの伴奏のように鳴りつづける。

そこには、たしかに「夏」があり「避暑地」があり、決して都会では味わえない「休暇」の感触があつたが、でも、その町で生まれ、その町で
育つた慎一には、そのすべてはひとごとでしかなかつた。いわば、他人たちのお祭りにすぎなかつた。⁽¹⁾ だいいち、彼には「休暇」も「避暑地」も
なかつたのだ。

来年、彼は近くの工業高校に進学するつもりでいた。それを母に許してもらうため、すこしでも貯金をしておこうと、その夏、慎一は同級生の
兄が経営するガソリン・スタンドに、アルバイトとしてやとわれていた。都会から来た連中が占領していたのは町だけではなく、もちろん、海も
だつた。海岸に咲いた色とりどりのビーチ・パラソルや天幕テントがしまわれるのは、夜も九時をすぎてからだろうか。それからもひとしきり海岸は、
ダンスやら散歩やら音楽やらでにぎわう。海辺から人びとのざわめきがひっそりと途絶えるのは、それが終わってから朝までのごく短い時間なの
だ。

八月のはじめの、ひどく暑い日だつた。その日は夜ふけまで暑さがつづいていた。それで海へ駈かけつけてきた連中も多いらしく、自動車を水洗
いする仕事しごとが午前一時すぎまでかかつた。慎一が、久しぶりに海で泳いだのはその夜だつた。

自分の町の海、幼いころから慣れきつた海だというのに、こうして人目をさけてこっそりと泳ぐなんて、なんだかよその家の庭にしのびこんで
いるみたいだ。「お客さん」たちに遠慮しているようなそんな自分がふとおかしかつたが、慎一はすぐそんな考えも忘れた。冷たい海の肌がなつ

かしく、快かった。

やはり、海は親しかった。月はなかった。が、頭上にはいくつかの星が輝き、黒い海にはきらきらと夜光虫が淡い緑いろの光の呼吸をしている。夜光虫は、泳ぐ彼の全身に隣またたきながらもつれ、まつわりつき、波が崩れるとき、一瞬だけ光を強めながら美しくサンランする。……慎一は、知らぬまにかなり沖にきていた。

ふと、彼は目をこらした。すぐ近くの暗黒の海面に、やはり夜光虫らしい仄ほのかな光の煙をきらめかせて、なにかが動いている。

「……だあれ？ あなた」

若い女の声と呼んだ。まちががなく若い女がひとり、深夜の海を泳いでいるのだった。

「知らない人ね、きつと。……」

女は、ひとりごとのようにいった。はじめて慎一は気づいた。女の声はひどく疲れ、喘あえいでいた。

「大丈夫ですか？」

慎一はその声の方角に向いていった。

「いいの。ほつといてよ」

女は答え、笑った。だが、声は苦しげで、笑い声もうまく続かなかった。慎一はその方向に泳ぎ寄った。

「……あぶないですよ、この海は。すぐうねりが変わるんです。もつと岸の近くで……」

「かまわないで」

ほんの二メートルほど先の海面で、波の襲ひだとともに夜光虫の光に顔をかすかに浮きあがらせた女は、睨(2)むような目をしていた。ああ、と慎一は思った。彼は、その顔をおぼえていた。

今日、真赤なスポーツ・カーにひとりで乗ってきた女だった。目の大きな、呼吸いきをのむほど美しいまだ若い女で、同級生の兄は、あれは有名な映画女優にちがいないぞといった。

「……あなた、この町の人ね？」

女の顔は見えなかった。彼は答えた。

「そうです。だからこの海にはくわしいんです」

「漁師さんなの？」

「……親父おやじが漁師でした」と彼はいった。「親父は、沖で一人底引き網*3をやってたんです。銚*4も打ったんです。二十八貫もあるカジキ*5を、三日がかりでつかまえたこともあります」

自分でも、なぜこんなことをしゃべりはじめたのか、見当がつかなかった。

ただ、なんとなく女を自分とつなぎとめておきたかったのかもしれない。

「そのときは、親父も生命(b)いのちからがらだつたんです。牛みたいな大きなカジキを、ふらふらになって担ぎながら、親父は精も魂もつき果てたっていう感じでした。……でもその夜、親父はそのカジキの背をたたきながらぼくにいったんです。おい、よく見ろ、おれは、こいつに勝ったんだぞ。生きるってことは、こういう、この手ごたえのことなんだよ。……あのとき、親父は泣いていました」

「銚で打ったの？」

「そうです。とても重い銚なんです」

「ずいぶん、原始的ね」女はひきつったような声で笑った。「で、お父さんは？」

「死にました。去年」

女はだまった。ゆっくりとその女のそばをまわりながら、彼はいった。

「……あなたは、自殺するつもりですか？」

喘ぐ呼吸が聞こえ、女は反抗的に答えた。

「ほつといてよ。……あなたには、関係ないことだわ」

「べつに、やめなさい、っていうつもりじゃないんですよ」

女は、ヒステリックにいった。

「からかうの？ 軽蔑けいべつしているのね、私を。子どものくせに」

あわてて、慎一はいった。

「ちがいます。親父がぼくにいったんです。死のうとしている人間を、軽蔑しちゃいけない。どんな人間にも、その人なりの苦勞や、正義がある。その人だけの生甲斐いきがいってやつがある。そいつは、他の人間には、絶対にわかりっこないんだ、って」

女は無言だった。遠く、波打ち際で碎ける波の音がしていた。

「人間には、他の人間のこと、ことにその生きるか死ぬかっていうカンジンのことなんかは、決してわかりっこないんだ、人間は、⁽³⁾だれでもそのことに耐えなくちゃいけないんだ、って。……だから、目の前で人間が死のうとしても、それをとめちゃいけない。その人を好きなように死なしてやるほうが、ずっと親切だし、ほんとうは、ずっと勇気のいることなんだ、って……」

女の顔に夜光虫の緑の燐光りんこうが照って、それが呼吸づくように明るくなり、また暗くなった。女は怒ったような目つきで、海をみつめていた。

「ぼくの親父も、自殺したんです。背骨を打つてもう漁ができなくなって、この沖で銚ちやうをからだに結むわえつけてとびこんじゃったんです。……あなたも、ぼくはとめはしません」

彼は岸に顔を向けた。そのままゆっくりと引きかえした。⁽⁴⁾真暗な夜の中で、ただ夜光虫だけが彼につづき、波間にあざやかに濡ぬれた色の燐光を散らしていた。

真赤なスポーツ・カーが、慎一のいるガソリン・スタンドに止まったのは、翌日の夕暮れ近くだった。ガソリンを入れに近づく慎一の顔を見て、女はサン・グラスをとり、急に目を大きくした。

「昨夜は」といい、女は笑いかけた。「……ねえ、あのお話、ほんとう？」

「ほんとうです」と、慎一は答えた。

「……そう。ありがとう。私、あれから一時間近くかかって、やっと岸に着いたわ」

女は、慎一の手を握った。

⁽⁵⁾「あなたに、勇気を教えられたわ。それと、働くってことの意味とを」

国道を真赤なスポーツ・カーが小さくなるのを、慎一はほんやりと見ていた。⁽⁶⁾女の言葉の意味が、よくわからなかった。

彼はただ、小さなその町に今日も溢あふれている無数の都会の人びと、その人びとがそれぞれに生きている夏の一つ、そんな他人の夏の一つが、し

だいに視野を遠ざかるのだけを見ていた。

(山川方夫「他人の夏」『夏の葬列』より)

*注1 ウクレレ ギターに似た小型の弦楽器。ハワイアン・ミュージックに用いられることが多い。

2 夜光虫 海洋性プランクトン。直径一ミリ内外の球形で、後方に一本の触手があつて、これで海面を浮遊する。刺激によって青く発光し、とくに夏の夜などは美しい。

3 底引き網 網を海の底にたらし、それを船で引いて魚をとる漁法

4 銛 鯨や魚介類を突いたり刺したりしてとる漁具で、ふつう木の柄の先に鉄製の突き具をつける。

5 二十八貫 貫は重さの単位で、一貫は三・七五キログラム。二十八貫は百五キログラムとなる。

6 カジキ 俗にカジキマグロとも呼ばれ、マグロに似てはいるが別種である。多くは体長二〜三メートル。上あごが剣状に長く伸びているのが特徴である。

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)のカタカナは漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア)

(イ)

(ウ)

(解答例) トクテイ

- ① 得
- ② 徳
- ③ 特
- ④ 匿
- ⑤ 督
- ⑥ 帝
- ⑦ 定
- ⑧ 底
- ⑨ 訂
- ⑩ 呈

答 ③ ⑦

(ア) フダン

- ① 普
- ② 負
- ③ 夫
- ④ 賦
- ⑤ 不
- ⑥ 暖
- ⑦ 断
- ⑧ 団
- ⑨ 壇
- ⑩ 男

(イ) サンラン

- ① 酸
- ② 産
- ③ 散
- ④ 参
- ⑤ 賛
- ⑥ 覧
- ⑦ 嵐
- ⑧ 濫
- ⑨ 欄
- ⑩ 乱

(ウ) カンジン

- ① 勘
- ② 肝
- ③ 関
- ④ 感
- ⑤ 完
- ⑥ 心
- ⑦ 身
- ⑧ 真
- ⑨ 深
- ⑩ 神

問二 傍線部(a)・(b)の本文中での意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(a)

(b)

(a) わがもの顔に

- ① 周囲を自分の支配下に置くかように威圧的に
- ② 自分が所有しているかのように横柄な態度で
- ③ 周囲に対し自らの功を誇り見せつけるかのように
- ④ 慣れ親しんすべてを理解しているかのように
- ⑤ 周囲の状況にうまく合致して何の違和感もなく

(b) 生命からがら

- ① 生活の糧を得るのに精一杯な状態
- ② 全力を出しきってしまった状態
- ③ 今にも死んでしまいそうな状態
- ④ 活気や精力に満ち満ちた状態
- ⑤ かるうじて命を失わずにすんだ状態

問三 傍線部(1)「他人たちのお祭りにすぎなかった」とあるが、なぜ「慎一」はそのように感じたのか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- ① 生まれ育った静かな町が都会の人間たちの喧噪けんそうで占領されてしまうことは、町の住人にとってはただ迷惑なものでしかなかったから
- ② 都会の人間たちが日常を離れて避暑地で楽しむ様子がどんなに羨ましくとも、都会人ではない自分は決して仲間に入れないから
- ③ 都会における日常の時空を離れて押し寄せる人間たちの浮かれた騒ぎは、日常を続ける自分には縁のないものだったから
- ④ 避暑客たちが山のように押し寄せてにぎわうことは日常ではありえないため、自分からその輪の中に加わることがためらわれたから

問四 傍線部(2)「睨むような目をしていた」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- ① 「女」は有名な映画女優であることから、スキャンダルに巻き込まれることに対して常日頃から警戒心をもっていたから
- ② 「女」は昼の喧噪を避けて夜の海を満喫していたのに、「慎一」がその静寂を破ってしまったから
- ③ 「女」は別に睨んだわけではないが、下心をもって声を掛けた後ろめたさで「慎一」が勝手にそう感じたから
- ④ 「女」は夜の海で誰にも知られず静かに死のうとしていたのに、「慎一」が邪魔をしに来たと思ったから

問五 傍線部(3)「だれでもそのことに耐えなくちゃいけないんだ」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- ① たとえ父親の死が自殺であったとしても、父親の決断を一方的に否定することなく、その死を受け止めなければならぬということ
- ② 他人の心情の深いところは到底わからないという現実に対して、目を背けることなくしっかり向き合わなければならないということ
- ③ 自分のポリシーを曲げてでも相手の好きなようにさせなければならぬという割り切れなさを、我慢しなければならぬということ
- ④ どんな理由があつたとしても安易に死に逃れることは許されず、苦しみながらも自分の生を全うしなければならぬということ

問六 傍線部(4)「真暗な夜の中で、ただ夜光虫だけが彼につづき、波間にあざやかに濡れた色の燐光を散らしていた」とあるが、この情景は何を意味しているのか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- ① 「女」から見た「慎一」の存在は、「慎一」自身の意図とは関係なく、「女」が生へ戻るための道しるべとなったこと
- ② 「慎一」が「女」の生死を「女」自身の選択に委ねつつも、本当は死んで欲しくないという強い想いを残していたこと
- ③ 死が支配する海に翻弄されながらもあざやかに光る夜光虫の燐光が、はかなくも美しい生のあり様を象徴していること
- ④ 父が自殺した沖の海で父の死と向き合った「慎一」が、悲しみからようやく立ち直って前向きに生きていこうとしていること

問七 傍線部(5)「あなたに、勇気を教えられたわ」とあるが、どのような勇気を教わったと「女」は理解しているのか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- ① 死のうとする人間を救うことによって生じる責任を恐れることなく、救いの手を差し伸べる勇気
- ② 他の人間のことは決してわからないのだから、たとえ生死の選択であっても無関心を貫く勇気
- ③ 自殺をしようとする人間が抱える深刻な問題に対しても、真剣に向き合って問題解決を図る勇気
- ④ どんなにつらくとも自分自身の生としっかり向き合って、その限界までとことん生き抜く勇気

問八 傍線部(6)「女の言葉の意味が、よくわからなかった」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

- ① 「慎一」の父の話から「女」は生と向き合うことの大切さを読みとったが、「慎一」は女の考えを尊重すると言っただけだったから
- ② 「慎一」にとっては懐かしい父との会話を思い出していただけであって、それを「女」に褒められるとは思っていなかったから
- ③ 「慎一」の父が漁師として獲物と果敢に渡り合い力尽きて死んでいったという話が、都会の女に意味を持つとは思えなかったから
- ④ 「慎一」は海辺の町の日常を生きており、都会の日常を生きる女とは決してわかりあえるはずがないと思っ込んでいたから

問九 本文の内容として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

22

- ① 身近な人の死を止められなかった「女」が後を追おうとしたときに、本当に勇気のある行いとはどんなものであり、残された者は何に耐えなければならぬかを「慎一」に気付かされた場面を描いた物語である。
- ② 死に近い場所である夜の海において、生と死の間を揺れ動く二人の交流を描くことによって、人生における生と死の境目は非常に曖昧であること、だからこそ生きる意味を見出すことの大切さを説いた物語である。
- ③ 避暑地で死のうとした「女」が、偶然出会った「慎一」の話の意味を取り違えたことで死を思いとどまったように、人と人との人生が交錯するときに思いがけない影響を及ぼすことがあるということを描いた物語である。
- ④ 「慎一」は父の死と向き合うため夜の海で沖まで泳いで行き、そこで巡り合った「女」に父との思い出話をしたこと、父の死の呪縛から解き放たれて前向きに生きる気力を得たことを描いた物語である。

Ⅲ 以下のそれぞれの設問に答えなさい。

問一 次の(1)～(3)の四字熟語の空欄に入る漢字を、解答例にならない、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(解答例) 三 四温

- ① 漢
- ② 乾
- ③ 甘
- ④ 寒
- ⑤ 閑

(1) 勸善 惡

- ① 張
- ② 帖
- ③ 懲
- ④ 丁
- ⑤ 超

(2) 順風滿

- ① 帆
- ② 版
- ③ 判
- ④ 犯
- ⑤ 班

(3) 風光明

- ① 日
- ② 美
- ③ 微
- ④ 備
- ⑤ 媚

(1) 23

(2) 24

(3) 25

答 ④

問二 次の(1)・(2)に示した熟語の対義語を完成するために、解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(1)

(2)

(解答例) 拡大 ↑ ↓

- ① 小
- ② 祝
- ③ 縮
- ④ 正
- ⑤ 宿
- ⑥ 召
- ⑦ 消
- ⑧ 肅
- ⑨ 淑
- ⑩ 少

答 ① ③

(1) 勤勉 ↑ ↓

- ① 惰
- ② 体
- ③ 耐
- ④ 怠
- ⑤ 退
- ⑥ 待
- ⑦ 墮
- ⑧ 妥
- ⑨ 駄
- ⑩ 脱

(2) 寛容 ↑ ↓

- ① 幻
- ② 覚
- ③ 元
- ④ 弦
- ⑤ 巖
- ⑥ 源
- ⑦ 確
- ⑧ 革
- ⑨ 隔
- ⑩ 格

問三 次の(1)・(2)の慣用句の意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1)

(2)

(1) 固唾かたずをのむ

- ① 驚きあきれて、言葉を失うこと
- ② よだれが出るほど、欲しくなること
- ③ どうにもならないため、受け入れること
- ④ 成り行きを心配しながら、じつと見守ること
- ⑤ 暑さで、喉がカラカラになること

(2) 手塩にかける

- ① いじめて、つらい思いをさせること
- ② ひどく心配で、落ち着かないこと
- ③ 厳しく接して、あまえさせないこと
- ④ 上手く言いくるめて、人をだますこと
- ⑤ 自分で世話をして、大切に育てること

問四 次の(1)～(3)に示した「熟語の構成の仕方」と一致する構成の熟語を、解答例にならない、それぞれ①～⑧の中から二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(1)

(2)

(3)

(解答例) 「同じような意味の漢字を重ねたもの」

- ① 岩石
- ② 疾患
- ③ 出沒
- ④ 因果
- ⑤ 洋画
- ⑥ 着席
- ⑦ 未熟
- ⑧ 腹痛

答 ① ②

(1) 「上の字が下の字を修飾しているもの」

- ① 勇壯
- ② 傑作
- ③ 抗菌
- ④ 緊迫
- ⑤ 挑戦
- ⑥ 雷鳴
- ⑦ 日没
- ⑧ 漆黑

(2) 「下の字が上の字の目的語・補語になっているもの」

- ① 遅刻
- ② 憂愁
- ③ 諾否
- ④ 珠玉
- ⑤ 推奨
- ⑥ 逸材
- ⑦ 受授
- ⑧ 献身

(3) 「上の字が下の字の意味を打ち消しているもの」

- ① 収支
- ② 暫定
- ③ 無礼
- ④ 秀逸
- ⑤ 融資
- ⑥ 非常
- ⑦ 正邪
- ⑧ 地震

